

105 小倉百人一首（2022年3月31日）

昨年、ディジョンを訪問した際に、ディジョン美術館に小倉百人一首が展示されているを見つけました。フランスで百人一首が展示されているのは珍しいと思いますので、ご紹介します。



小倉百人一首とは、100人の歌人の和歌を一人に一首ずつ選んでまとめられた歌集です。和歌とは、31（5、7、5、7、7）の音節を持つ五行詩で、日本の伝統的な定型詩の中でも、最も古くから存在する形式の詩歌です。小倉百人一首は、公家で歌人であった藤原定家（1162年-1241年）が編纂しました。小倉百人一首に選ばれた歌の作者は、天皇や貴族、僧侶などがあり、100人のうち21人が女性です。恋の歌や季節を詠んだものがあります。



中でも有名な歌として、天智天皇とその娘である持統天皇の歌が挙げられます。

秋の田のかりほの庵の苫をあらみ
わが衣手は露にぬれつつ
天智天皇



Empereur TENCHI



Impératrice JITO

春過ぎて夏来にけらし白妙の
衣干すてふ天の香具山
持統天皇

江戸時代（1603年—1868年）になると、百人一首は、絵入りのかるたという遊び道具として広まりました。ディジョン美術館に展示されているものは、江戸時代に作られたと考えられています。一つの句に対して、上の句（5、7、5）が書かれた文字のみの札と下の句（7、7）が書かれた絵札の二枚の札があります。上の写真は、それぞれの句の下の句が書かれた絵札になります。かるた遊びをする人は、畳の上に並べられた絵札の中から、読み手が読み上げた上の句に対応する下の句が書かれた絵札を素早く取り、誰が多くのかるたを取ることができるかを競います。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

日本には、この百人一首を使った競技かるたの大会があります。競技かるたの試合で勝利するには、百首全てを覚える記憶力だけではなく、素早くかるたを取るための瞬発力と集中力も必要とすることから、競技かるたは「畳の上の格闘技」とも言われています。



現代でも日本の学校では、古典の授業で百人一首を学びますので、夏休みの宿題で必死に和歌を暗記した思い出を持つ多くの日本人がいます。競技かるたの試合で勝つことは難しいですが、より簡単な「坊主めくり」と言われる遊びもあります。絵札には、男性、僧侶又は女性（姫）が描かれています。床に置いて裏返した絵札を一枚ずつ交代でめくっていきます。男性の絵札を引いたら手元に持ち、僧侶の絵札を引いたら全て手放し、お姫様の絵札を引いたら、他の人が手放したかるたを全て手にすることができます。最初に床に置いたかるたがなくなった時点で一番多くのカードを持っている人が、勝者となるゲームです。坊主を引きませんように。

百人一首は、文学作品としても娯楽としても、長く日本人に受け継がれています。

※展示作品は、時期によって変更となる場合があります。